

情報共有

4枚

NISA 向け
定例 研修 ← フォルダ共有TM

H23.5.23①議事メモ.doc Last printed 5/24/2011 5:54:00 AM

非管理メモ

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 5 月 23 日 (月) 11:00～:11:30

場所：東京電力本館 3 階 A 大会議室

先方：記者約 35 名 (カメラ 5 台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

本店広報部

配布資料：

- ・ 東北地方太平洋沖地震による影響などについて (5月23日午前9時現在)
- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (5月23日6:00現在)
- ・ 福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺サブドレン水核種分析結果

質疑：

Q. 5月19日に実施した2号機原子炉建屋のダストサンプリングの際の作業環境が悪かったとのことだが、どのような状況だったのか。サンプリングの精度にどう影響があったのか。

A. 2号機原子炉建屋内は温度が高く、アノラック・放射線防護スーツ・タイベック・セルフエアセットなど重装備であったため、作業環境は厳しかった。そのため、サンプリング機器のタイマーが予定時間通りにセット出来ず、サンプリングに十分な量が採取できなかった可能性がある。

Q. 2号機原子炉建屋のダストサンプリングは地面からどれくらいの高さで測定したか。

A. 床から約1mで、これはサンプリング機器をセットする三脚の高さである。

Q. 2、3号機の中央制御室データ、プラントパラメータ分析評価の報告は、いつ保安院へ提出するのか。

A. 本日中に提出する予定。時刻については未定。

Q. 現在、2号機立坑から集中廃棄物処理施設のプロセス主建屋に、3号機タービン建屋地下から雑固体廃棄物減容処理建屋に移送しているが、それぞれいつ予定移送量に到達するのか。

A. 集中環境処理施設のプロセス主建屋は約1週間程度、雑固体廃棄物減容処理建屋は数日程度で予定移送量に到達する。

Q. 3月12日の海水注水中断に関して、海水注入はいつから検討していたのか。

A. 現在、時系列をまとめている段階である。

Q. 海水を注水したのは福島第一原子力発電所の判断なのか。経営層にも連絡してい

H23.5.23①議事メモ.doc Last printed 5/24/2011 5:54:00 AM

たのか。

A. 基本的には福島第一原子力発電所の判断であるが、事前に本店にも連絡があった。

Q. 4号機の使用済燃料プール下部の支柱設置工事の作業予定は。

A. 原子炉建屋2階にある原子炉冷却材浄化系の熱交換器室の片づけ、遮へい材の取り付け、作業用の足場の組立てを予定している。

Q. 4号機の使用済燃料プール支柱の設置予定は6月までか。また、支持構造物の完成予定は7月末までか。

A. その予定は現時点で変更がなく、そのための準備作業を進めているところ。

Q. 4号機使用済燃料プールの循環冷却システム設置工事と支持構造物設置工事は並行作業となるのか。また、4号機使用済燃料プールの循環冷却システム設置はいつか。

A. 4号機使用済燃料プールの循環冷却システム設置工事と支持構造物設置工事は並行作業となり、4号機使用済燃料プールの循環冷却システム設置は7月中に設置する予定で、1、3号機は6月に設置予定。

Q. 先日、3号機タービン建屋から雑固体廃棄物減容処理建屋へのポンプの能力を約20m³/hへ変えたが、その能力で移送すれば約3日で予定量となるかと思うが、予定移送量に到達した場合は移送を停止するのか。

A. 雑固体廃棄物減容処理建屋の水位も確認しつつ、移送を一旦停止する予定。なお、立坑は閉塞しており、タービン建屋から水が溢れるわけではないと考えている。

Q. タービン建屋の溜まり水は、閉塞したトレンチから流出することはないとしても、その分がタービン建屋へ溜まり、そこから地下水に流出することはないのか。

A. 現在、サブドレンをサンプリングしており、分析結果からも地下水への流出はないと評価している。

Q. 3号機側のタービン建屋地下の溜まり水の移送が停止すれば、4号機タービン建屋へ影響があるのではないか。2号機立坑に関しても移送を停止するとどこかに影響を与えるのではないか。

A. 3号機と4号機タービン建屋は連絡口を通じてつながっており、影響する可能性はある。2号機立坑に関しても、場所は特定できないが水位が上昇することによって影響があるかもしれない。

Q. 2、3号機の汚染水移送の日程に水処理施設の設置は折り込んでいたのか。

A. 水処理システムの完成の工程を汚染水の移送量によって調整していた。実際、2号機トレンチの移送は予定量が1/4になったら、ポンプ2台で移送するであったが、水処理システムの工程を考慮して、1台で予定以上時間をかけて移送するなど調整していった。

Q. 今後、2号機の原子炉建屋のダストサンプリングの作業環境の改善はどうするの

H23.5.23①議事メモ.doc Last printed 5/24/2011 5:54:00 AM

か。

A. 今回はダストサンプリングを実施した作業員が他の作業を含めて建屋を廻っていたが、今後はダストサンプリング作業に限定することで、作業時間などの改善をしていく次第。

Q. 一部報道で「869年の貞観地震の津波を東電が過小評価していた」という記事があるが、事実か。

A. 当社が2009年から調査した結果をまとめた論文で、「貞観地震において富岡町からいわき市にかけては標高5mを超える津波はなかった可能性が高い」を述べているが、貞観地震の津波のモデルについては確かな物ものが定まっていないと認識しており、更なる調査や研究が必要であると考えている。

Q. この論文の内容から考えると、大津波の可能性を小さく評価する見込みだったのか。

A. 津波の評価を变えるということではなく、貞観地震に関して南相馬市からいわき市にかけて調査した結果をまとめたもの。調査結果から4~5mを超えると判断しているが、今後、更なる調査や研究が必要と考えており、津波の評価の大小について言及したものではない。

Q. 当初、水処理施設の運転開始時期は、たまり水の移送終了時期に間に合う予定だったのか。

A. 当初は水処理施設の稼働に合わせて移送を考えていたが、設備の設置状況等をふまえると少しミスマッチが生じている。水処理施設が順調に進めば処理できるものと考えており、こういった半月程度の期間であれば、タービン建屋で溜められるものと考えている。

Q. 「ミスマッチ」とは移送が予定より早く進んだということか。それとも水処理施設の完成時期が予定より遅れたということか。

A. 水処理施設の完成が6月上旬から中旬に遅れているが、その期間はタービン建屋で一時的に保管できるものと考えている。

Q. 二週間移送を止めて、タービン建屋に受け入れた場合、タービン建屋の水位はどの程度上昇するのか。

A. これまでに移送を止めていた期間が二日程度あった際のタービン水もあまり変化がないというのが実態であり、移送を停止したからといって急激に水位が上昇するものではないと判断している。また、3号機については現在18m³/hで注水しているが、今後、消化系の注水量を減らしていくので、漏水量も抑制できるのではないかと考えている。

Q. 集中廃棄物処理建屋の他の建屋における、止水工事や受け入れ予定はどうか。

A. 基本的にはプロセス主建屋と雑固体廃棄物減容処理建屋での受け入れを考えており、現時点で他の建屋の受け入れの予定はない。

Q. 5月18日に採取した2号機原子炉建屋内ダストのサンプリング結果の10⁻²Bq/cm³の

H23.5.23①議事メモ.doc Last printed 5/24/2011 5:54:00 AM

オーダーの数値が仮に正しい値であれば、セルフエアセットではなく全面マスクでの作業が可能となるのか。

A. $10^{-3}\text{Bq}/\text{cm}^3$ のオーダーまで下がってくれば可能と思われるが、 $10^{-2}\text{Bq}/\text{cm}^3$ のオーダーだとまだ高いと考えている。

Q. ダストサンプリングを再測定する予定は。

A. 現時点で未定。

以上